

成果

- 献立作成の際に、児童がどのような意図で食材やメニューを選んだのかという思考が見取りやすいようにワークシートを工夫した。さらに ICT を活用してそのワークシートを電子黒板に映すことで、ワークシートを全体で共有し、どのように改善したらよいかを考えることができた。
- 「見た目がおいしそうな料理が食べたい」「季節のものが食べたい」「手際よくつくりたい」といった仮想家族の要望を満たすことに児童は意識をとられ、栄養バランスを整えるという最も大事な視点が抜けていることに気付いた。「栄養バランスを改善したい」という児童の思いから話し合いが始まり、アドバイスや相談をしながら目的意識のあるグループ交流につながった。
- 全体交流では、栄養バランスと色どりを同時に満たすことができる工夫や、一方で別の要望を満たすことができなくなる場合もあるということなど、多角的な視点で献立改善の工夫について話し合うことができた。また深めの発問によって、児童は栄養バランスだけでなく旬や色どりを工夫していく必要性にも気付き、自分の家族のための献立作成でもいかそうとしていた。題材の中で本時がどのように位置づくかを意識させることで、題材を通して付けたい力を育成することができた。

課題

- 本時では活動が多かったため、全体交流の時間がタイトになってしまった。どの活動も削ることは難しいと感じるため、個人思考やグループ交流の時間は保障して児童の思考の流れを大切にしながらも、テンポよく展開していく必要がある。